



e-La Voz

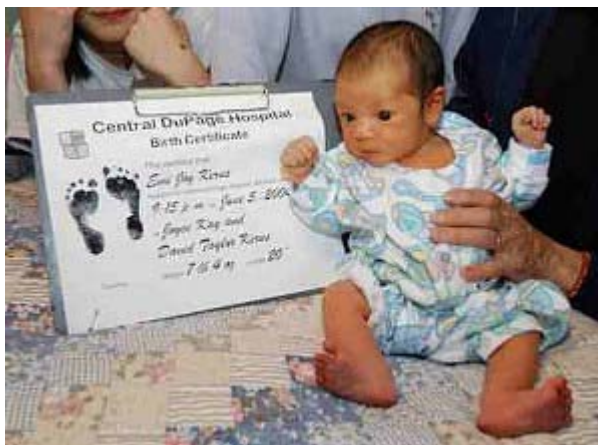
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第20号)

2004年6月19日発行

シカゴ報告 — Emi (恵美) Joy 誕生！

シカゴ郊外ホイトン市の総合病院で6番目の孫が生まれました。6月5日午後9時15分。体重3.3キログラム、身長51センチでした。女の子だったのでEmi (恵美) Joyと命名。家の中がいちだんとにぎわっています。今日は出生証明書作成のために小さな両足にインクをつけて捺印がわりに押しました。



さて あかんぼは なぜに あんあん あん
あん なくのだろうか
ほんとうにうるせよ あんあん あんあん
あんあん あんあん
うるさかないよ かみさまをよんでるんだ
よ
みんなもよびな あんなにしっこくよびな

ほんとうに赤ん坊はよく泣きます。生きている証明であり、素直な訴えです。信仰詩人 八木重吉は神への一途な信頼と祈りをこのように詩で表現しています。まさに生の冒険は、神をよぶことから始まるのだといえます。

“地を造られた主、それを形造って確立された主、その名は主である方がこう仰せられる。わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた、大いなる事をあなたに告げよう。(エレミヤ書33.2&3)”

私たちが漕ぎ出す人生の大海原では、針路を決めることも、明日の航海を決めることも容易ではありません。またいつ天候が変化して嵐にならないともかぎりません。理論どおりすまず、予測がはずれるのが常識です。そのような人生航路をたどりながら神を呼び求め続けるの南米生活40年でした。今日は私たちに与えられた3人の子供たちの航跡をたどって、私たちの思いをはるかに越えて答えてくださった神の恵みをふりかえってみたいと思います。

長男 道夫 — 1962年 神奈川県海老名市生まれ。ちょうど母の日とあって赤いカーネーションが一輪病室を飾った。久里浜教会仮集会所で献児式をおこない、満1才で両親に抱かれて羽田空港からアメリカへ渡航。6ヶ月間のデピュテーション(宣教師の支援者確保)で北米を巡回した後、南米エクアドルへ飛ぶ。幼稚園から高校までは宣教師子弟を教育するアライアンス・アカデミーで学び、そのあと一年間、イギリスとスウェーデンで聖書学校に行き、つづいてニューヨークで音楽を専攻して卒業。ちょうどその時、HCJBから要請があり音楽宣教師候補となったものの、支援教会がないため、はたと行き詰まってしまった。八方ふさがりで見上げるのは上だけ。呼び求めたときに答えは思いがけないところからきた。たまたま東京淀橋教会の海外宣教委員会が宣教師候補をさがしており、教会の青年部で音楽活動をする道夫の実績をみて全面的に支援を約束。それ以来忠実に支えられてきた。現在、HCJBでの音楽主任宣教師として、作曲、編曲、演奏から地方教会での賛美指導、HCJBコンサートの指揮など多方面で活躍中。1995年キト空港に降り立ったオランダの姫君と結ばれ、今は5歳のLinda Joy (美喜)と3歳のMelody Graceがプリンセスの座を占めている。

次女 慶子 — 1963年 アメリカのシカゴ近くのゲイリー市生まれ。HCJB日本語放送の支援を訴えるため日本をあとにアメリカに渡ったものの、援助はなかなか与えられず、あてどもなくさまよう日々がつづいていた。そのさなかミシガン湖畔のバイブル・キャンプで知り合った家族の世話で近くの町に滞在することになった。長い間気になっていた久子の容態を診てもらおうと病院をたずねたところ、医師に「奥さんはこれ以上旅をつづけてはいけません。お腹の赤ちゃんは臨月です。」と言われた。驚いて顔を見合わせている私たちをみて医師はさらに言葉をつづけた。「私は医療宣教師としてインドに行くつもりでした。しかし、神様は

道を開いてくださらなかったのです。そこで私は宣教師を助けることを決心したのです。」この医師は出産のための費用を一切肩代わりしてくれた。明日の身もわからない旅先で受けた犠牲的愛の行為を忘れることはできない。それから3ヶ月後、マイアミの教会でやっと必要が満たされ、生後3ヶ月の慶子はベビー・ベッドですやすやす寝たままエクアドル航空の4発 ブロップ・ジェット機でキトに着いた。アライアンス・アカデミーではバスケット、バレーの選手として活躍。高校バンドでもフルートとサクソホンを演奏するなど部外活動を楽しんだ。アメリカの大学に進学したときも高校時代の友達と同室となり恵まれた学生生活を送った。卒業の年にカウンセラーとして出かけたバイブル・キャンプで、やはりカウンセラーとして友達に誘われてキャンプにきていたDaveと知り合って結婚。現在はホイートン市のアライアンス教会でDaveは電気&音響技師として、また慶子は音楽主任牧師の秘書として奉仕している。長女のChristine(15歳)も夏休みは母親のアシスタントでアルバイト。長男Jeffrey(13歳)、次男Samuel(2歳)と生後2週間の次女Emiの2男2女。それに加えてエクアドルから再移住してきた私たちが居候をはじめたので親子3代の大家族となった。

次男 祐二 - 1965年 エクアドルのキト市生まれ。HCJBのスタジオで日本語放送が始まるので久子がくるのを待っていた。そこへ姿をみせたのは白衣の看護婦。窓越しにスタジオに向かって手をふった。「待ってもだめですよ。入院しました。」その数時間後、久子は無事に男の子を出産。さあ病院では日本人の赤ん坊が生まれたというので、医師、看護婦から入院患者まで、エクアドル生まれの第一号日本人を見ようとかけつけた。「うわあ、そっくりだ。」「猿似ですか。」「いや、お父さんや兄姉に。」「迷子になっても大丈夫だね。」エクアドル人家庭では、兄弟同士でも似なくても当たり前。500年間もスペイン民族との混血をくりかえしてきた国では「そっくり家族」の方が珍しい現象となる。祐二は似ている兄や姉に勝るとも劣らじとサッカーや音楽で実力を伸ばした。卒業式でギターをひきながら歌った“Friend”の曲は、そのとき以来母親の愛唱歌になっている。子供たちは3人とも動物が好きで、とくに祐二は小さいときから犬、猫、猿、鳥、熱帯魚などをペットとして可愛がった。アメリカの大学にすすんだが南米生まれのサッカー選手として奨学金をもらっていたが、4年生になるときっぱりと辞退した。就職のために専攻科目であるビジネスの勉強に専念するためだった。卒業後、単身あこがれの日本に帰国して外資系会社に就職した。日本語は十分でなくても、英語力と国際感覚がかわれたのか、最近、東京支店から新支店が開設されたオーストラリアへ栄転となった。結婚2年目。日本人の嫁であるみちほさんは祐二の日本語アドバイザーだったが、現在はシドニー湾を見下ろす新居でオーストラリア英語と聖書の勉強にいそしんでいる。

このように、私たちの子供3人はそれぞれ違った国で生まれ、興味深いことに日本生まれはエクアドルで、エクアドル生まれはオーストラリアで、そしてアメリカ生まれだけは生まれた国に住んでいます。その理由付けはともかく、だれがこの3人の半生を予見できたでしょうか。私たちは、自分で生まれる場所も、時も、名前も選ぶことはできません。創造者なる神の大きなみ手の中で計画にそってこの世に生まれてくるからです。たとえ自分で完全な計画をたてたとしても思いどおりにはいかないのです。しかも十人十色の個性を与えられているからには、完全に満足できる周囲の環境などは、まさにユートピア(「元々どこにもない場所」という意味)で、どこにもあるはずがありません。そんなものをさがすよりも、むしろ、人間の予測をいつも超えてしまう「生の冒険」を受けて立ち、積極的に大海に乗り出そうではありませんか。答えてくださるという約束があるのですから、その方呼び つづけながら自分なりの人生を完成させるために上を仰ぎつつ歩きましょう。

HCJB日本語放送担当

在 主 尾 崎 一 夫 久 子

HCJB(オーストラリア)英語番組をおきください

番組名: International Friendship Program ホスト: Eric Skettebo ゲスト: 尾崎一夫

東アジア向け 6月26日(土) 日本時間0830(2330UTC) 15.525MHz
6月26日(土) 日本時間2100(1200UTC) 15.435MHz

南太平洋向け 6月21日(月) 日本時間1800(0900UTC) 11.750MHz
6月25日(金) 日本時間1600(0700UTC) 11.750MHz

東南アジア向け 6月25日(金) 日本時間1900(1000UTC) 15.425MHz

* 東アジア向けのアンテナが完成しました。日本での受信状態を知りたく願っています。

受信レポートの宛先:

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://www.hcjb.org/japanese/forums/)」と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmoz/)」のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、**Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。**ご面倒ですが、[HCJB日本語放送](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (※重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。)

配信変更先のメールアドレス
(※重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。)

新規登録するメールアドレス

※お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
※このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2004 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
